



校長室より 『天行健』 とは

梅雨の時期になりましたが、真夏を思わせる日が続いています。マスク着用の日々で熱中症に注意しなければなりません。

多くの学校では校長室に歴代校長の写真が掲げられています。しかし、馬頭高校では校長室の隣の応接室に初代町田実校長から第25代笹沼達彦校長までの写真があり、校長室には『天行健』という扁額が掲げられています。校長として赴任してからこの言葉の意味を調べ、なぜこの扁額が校長室に掲げられているのか納得することができました。

「天行健」とは中国の書物『易経』にある言葉で、「天行健。」の次に「君子以自彊不息。」と続きます。読み方は、「天行健なり。君子はもって自ら彊（つと）めて息（や）まず。」です。そしてこの意味は、「天体の運行（天行）は、宇宙の誕生以来、常に規則正しく動き、時を刻み、太古から現在に至るまで、今まさにこの瞬間も休みなく、整然と正しくめぐり、誠に健やかである。人々の上に立つ君子たるものは、この健やかな天の運行を範とし、自ら努め、学問に励み、職務を全うし、怠ることなく規則正しく健全であるべきである」とされています。

この書が書かれたのは「昭和己卯歳」、つまり1939（昭和14）年のことです。落款は「木魚書」とあり、この方は栃木県書道連盟副会長を務めた石川木魚（1900-1985）で、氏が39歳の時に書いたことが分かります。本校の創立は昭和21年ですから、創立以前に書かれたものが、どの校長の時に、どんないきさつで校長室に掲げられたのでしょうか。校長室がある管理普通科棟が新築されたのは1985（昭和60）年で第12代桑野弘校長時代ですが、その時なのか、それ以前からあったのか、今となっては調べる術がありません。しかも、その年は木魚氏の没年にあたるのです。しかし、この扁額が校長室に掲げられている理由を想像するのは難しくはありません。

もとより校長が君子というわけではありませんが、学校の責任者としての役目を果たさなければなりません。時には重い決断をしなければなりません。したがって、その校長への「戒め」としてこの扁額が掲げられているのでしょう。歴代校長はどんな思いでこの扁額を見ていたのか知るよしもありますが、毎日目にする「天行健」を心に留めて職務にあたりたいと思います。

